

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 28日

事業所名 リンク

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1		物理的にスペースを広げることは難しい為、限られたスペースでの活動内容を考慮したり、立地的に近隣に公園等が多い為、活動場所として活用している。
	2	職員の配置数は適切である	7	0	屋外活動やその他活動内容等によっては、配置スタッフを増加する等して対応。	※スタッフの退職等が続き大変な時期が多かった。
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1	常勤・非常勤問わず意見が出し易い雰囲気作りを努めている。	勤務及びシフトの都合上、会議等に参加出来ないスタッフが内容を理解・把握出来るように別途口頭での伝達や議事録の閲覧等を行っている。
	4	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0		保護者等から挙がった意向・意見等を所内にて精査し、必要に応じた改善を行っている。
	5	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0		
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	7		第三者評価を取り入れていない。
	7	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	所内にて外部研修等の案内を行い、希望に応じた研修参加や研修内容に適したスタッフへの参加を促している。	シフトの都合上、非常勤スタッフへの研修確保が不十分な為、研修報告書等にて内容を共有出来るように対応。
適切な 支援の 提供	8	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	基本的には面談実施ではあるが、都合が合わない保護者に関しては電話やアンケートによるアセスメントを実施する等、柔軟に対応している。	
	9	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0		
	10	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0		1週間毎に活動プログラムを立案する担当者を変更し、テーマが偏らない様に留意。また立案を書面にて共有し、チームとして実施出来るように対応。
	11	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0		
	12	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	各児童の特性や性格・状況等に応じた活動の提供を行っている。	
	13	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1	口頭での確認が難しいスタッフに対しては、書面やアプリ等を活用し、必ず確認が出来るように対応。	
	14	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1	終礼記録を取り、休みのスタッフ等も情報共有が可能となるように対応。	
	15	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0		支援中にも適宜メモを取りながら、スタッフ間の伝達、及び保護者への報告漏れがないように留意。
	16	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	0		
	17	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7	0		『地域交流』が不十分。コロナ前には公民館行事に参加したこともあった。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	18	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	児童の状況等を考慮し、より参加がふさわしいスタッフの選定に留意。	
	19	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	0	宿題の内容や進捗等の確認を適宜担任と行う事で、児童本人が戸惑い無く所内にて取り組む事が出来るように対応。	
	20	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	3		左記の機関との支援の連携等は行われていないが、『ゆうゆうセンター』主催の研修案内を適宜確認し、内容に沿ったスタッフの参加を促している。
	21	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	アプリを活用し、写真等にて状況を伝える事でより詳細に様子が伝わりやすくなる。	
保護者への説明責任等	22	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0		
	23	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	所内のみで対応が難しい場合には、担当の相談支援専門員へ助言を仰ぐ。	
	24	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0		
	25	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	行事予定やその他所内の連絡事項等に関しては、書面やアプリを活用した情報発信を実施。	
	26	個人情報に十分注意している	7	0		
	27	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	必要によってはスタッフを限定して対応。	
非常時等の対応	28	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	0		単発の説明では、意識が薄れていく可能性が高い為、定期的な説明の機会を設ける等、より確実な周知を心掛ける。
	29	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0		
	30	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	1	研修以外に終礼時等を活用し、各自の対応を振り返るなど、虐待意識を高める為の注意喚起を行っている。	
	31	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	0		
	32	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0		直接医師の指示書を提出してもらうことは無いが、保護者を通じて必要な対応を確認。また書面への記載を依頼。
	33	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1	事象の大小を個人で判断することなく、報告漏れが生じない様に意識の共有を図る。	ヒヤリハット事例集の作成は無いが、終礼記録に盛り込んだ記録の徹底に留意。